



業況DIは1.6ポイントの上昇、売上見込が前期より回復

～令和4年4－6月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業2,000社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和4年4－6月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇ 要 旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況DI、前期3ヵ月後予想よりも上昇 ～

総合の業況DIは、前期比1.6ポイント上昇の▲37.7となりました。前期の3ヵ月後見込よりも5.7ポイント上昇し、今期は業況の回復が見られる結果となりました。

また、今後については3ヵ月後が現在比3.3ポイント低下の▲41.0（前期の半年後見込▲37.3）、半年後が同0.9ポイント上昇の▲36.8ポイントを見込み、次期については厳しい見方がされています。当面、原材料高騰やウクライナ情勢の影響が続くことを懸念している企業が製造業、建設業を中心に増えています。

2. 業種別特徴 ～ 業況DI、製造業・建設業は低下、商業・サービス業は上昇 ～

製造業の業況DIは前期比3.9ポイント低下の▲28.2で、ほぼ前期見込（▲28.5）通りとなりました。中分類で見ると、一般機械（同8.9ポイント低下の▲22.1）、輸送機械（同5.7ポイント低下の▲45.3）は前期を下回った一方、電気機械は同6.7ポイント上昇の▲16.9となりました。

建設業の業況DIは同9.5ポイント低下の▲16.8となりましたが、前期見込（▲33.6）は上回りました。

商業・サービス業の業況DIは同7.4ポイント上昇の▲48.5で、前期見込（▲54.8）を上回りました。この内訳を見ると、卸売業が同2.5ポイント上昇の▲42.7、小売業が同6.5ポイント上昇の▲56.6、飲食店が同36.2ポイント上昇の▲48.6、サービス業が同4.3ポイント低下の▲39.4と、新型コロナの落ち着きもあり、回復傾向にあります。特に飲食店は、まん延防止の解除による営業再開やGWの人の出の増加により大幅な上昇となりました。

また、3ヵ月後は製造業が現在比2.7ポイント低下の▲30.9（前期の半年後見込▲25.9）、建設業が同21.8ポイント低下の▲38.6（同▲36.1）、商業・サービス業が同0.7ポイント上昇の▲47.8（同44.6）と、いずれも前期の半年後見込を下回っています。なお、半年後は製造業が同0.4ポイント上昇の▲27.8、建設業が同21.3ポイント低下の▲38.1、商業・サービス業が同6.5ポイント上昇の▲42.0を見込んでいます。

3. 規模別*特徴 ～ 中規模企業の売上DIが大きく上昇 ～

中規模企業の業況DIは前期比6.6ポイント上昇の▲29.3、小規模*企業のDIは同3.8ポイント低下の▲47.1となりました。売上DIは中規模企業が同17.4ポイント上昇の▲15.1、小規模企業が同8.4ポイント上昇の▲32.8、採算DIは中規模企業が同1.1ポイント上昇の▲36.3、小規模企業が同1.8ポイント低下の▲44.4となりました。特に中規模企業の売上DIの回復が顕著で、これが業況DIにも影響したと見受けられます。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、6地区で前期3ヵ月後見込より上昇 ～

前期より業況DIが上昇したのは5地区（横浜、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）、低下したのは3地区（川崎、横須賀、平塚）でした。このうち横須賀、足柄上・西湘を除いた6地区は前期の3ヵ月後見込より上回っています。業況の改善が顕著だった藤沢地区では、飲食店（前期比80.0ポイント上昇）と小売業（同29.8ポイント上昇）が大きく上昇していました。

また、3ヵ月後は現在比で川崎、横須賀、足柄上・西湘の3地区が上昇、その他5地区は現在より低下すると見込んでいます。前期の半年後見込と比較すると、藤沢を除く7地区で下回っており、各地区とも次期は前期の予想より厳しい状況になる見立てをしています。

さらに、半年後は現在比で3地区（横浜、川崎、足柄上・西湘）が上昇、5地区（横須賀、平塚、藤沢、相模原、厚木）で低下を見込んでいます。

地区	今期業況DI（前期比／前期3ヵ月後見込）	増減	同3ヵ月後見込（同半年後見込）	増減	同半年後見込
横浜	▲37.5（0.1ポイント上昇／▲47.4）	↓	▲39.8（▲37.1）	↑	▲32.4
川崎	▲35.8（7.1ポイント低下／▲39.4）	↑	▲34.1（▲32.0）	↑	▲30.6
横須賀	▲44.3（8.1ポイント低下／▲36.8）	↑	▲43.2（▲29.8）	↓	▲46.3
平塚	▲46.5（4.8ポイント低下／▲49.5）	↓	▲49.0（▲48.6）	↓	▲51.0
藤沢	▲18.2（19.3ポイント上昇／▲37.5）	↓	▲30.3（▲37.5）	↓	▲25.3
相模原	▲36.6（8.6ポイント上昇／▲40.0）	↓	▲48.4（▲37.8）	↓	▲44.6
厚木	▲33.6（3.2ポイント上昇／▲41.7）	↓	▲41.8（▲37.0）	↓	▲37.0
足柄上・西湘	▲51.0（5.9ポイント上昇／▲49.5）	↑	▲46.7（▲39.2）	↑	▲37.4

※ 増減は今期業況DI（斜体）と同3ヵ月後見込、同半年後見込との比較。

5. その他（経営状況、前期経営実績、主なコメント）

～ 売上、単価が回復 ～

前期の経営実績は、「売上水準」は前回調査比1.1ポイント低下しましたが、今期の経営状況では「売上」（同13.1ポイント上昇）、「単価」（同11.1ポイント上昇）が大きく上昇しました。

主なコメントとして、「コロナ対策が緩和され、スナックの開店や、誕生祝い用の花束、アレンジ等の販売が増えてきました。」「かながわPayが実施されたため、好調でした。」「今回のゴールデンウィークは、思っていた以上の人出もあり、売上好調となりましたが、今後の感染状況でまた、時短営業などにならないか心配である。また、食材（材料費）高騰に悩まされている。」などの声が上がっていました。コロナの影響が落ち着きを見せる一方、原材料費高騰による仕入れコストを懸念する声が目立ちました。

【調査要領】

調査時期：令和4年5月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：1,006社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先
 （公財）神奈川県産業振興センター（KIP）
 （Kanagawa Industrial Promotion Center）
 総務部企画広報課 上野
 TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018
 URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail: kikaku@kipc.or.jp

令和4年4-6月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは1.6ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和4年4-6月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和4年5月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,006社（50.3%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	337	61.3%
建設業	250	127	50.8%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	542	45.2%
合計	2,000	1,006	50.3%

2. 調査結果

（1）総合

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲45.6	▲38.2	▲39.3	▲37.7	▲41.0	▲36.8
売上DI	▲34.4	▲18.5	▲36.5	▲23.4	—	—
採算DI	▲36.4	▲29.7	▲39.8	▲40.1	—	—

総合の業況DIは、前期比1.6ポイント上昇の▲37.7となった。

経営状況では、売上DIは前期比13.1ポイント上昇の▲23.4、また、採算DIは同0.3ポイント低下の▲40.1となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比3.3ポイント低下の▲41.0、半年後は同0.9ポイント上昇の▲36.8を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲28.4	▲25.8	▲24.3	▲28.2	▲30.9	▲27.8
売上DI	▲11.1	▲12.9	▲19.2	▲19.3	—	—
採算DI	▲22.3	▲27.4	▲31.2	▲42.6	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比3.9ポイント低下の▲28.2となった。

経営状況では、売上DIは、前期比0.1ポイント低下の▲19.3、採算DIは同11.4ポイント低下の▲42.6となった。

「全ての購入品の値上がりで、非常に困っています。特に材料費の単価の上昇が止まらない。それを製品単価に乗せられない。」「材料費高騰、受注減が続いている為、利益が落ちている。」「一部海外製品を使用しており、円安による仕入れの高騰がきつい。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比2.7ポイント低下の▲30.9、半年後は同0.4ポイント上昇の▲27.8を見込んでおり、「納入先の海外調達の影響で、生産が不安定のため、出荷がバラツキている。徐々に回復しているが、まだ悪影響は続く見通し。」「コロナ・ロシアのウクライナ侵攻と鋼材の不足、値上がり等、非常に見通しが厳しい。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
一般機械	▲23.6	▲20.9	▲13.2	▲22.1	▲23.5	▲26.2
電気機械	▲34.2	▲16.7	▲23.6	▲16.9	▲17.1	▲23.0
輸送用機械	▲25.9	▲36.8	▲39.6	▲45.3	▲48.0	▲28.6
その他	▲29.1	▲30.3	▲27.0	▲32.2	▲37.8	▲31.6

中分類で見ると、一般機械は前期比8.9ポイント低下の▲22.1、電気機械は同6.7ポイント上昇の▲16.9、輸送用機械は同5.7ポイント低下の▲45.3となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比1.4ポイント低下の▲23.5、電気機械が同0.2ポイント低下の▲17.1、輸送用機械は同2.7ポイント低下の▲48.0、半年後は一般機械が同4.1ポイント低下の▲26.2、電気機械が同6.1ポイント低下の▲23.0、輸送用機械は同16.7ポイント上昇の▲28.6を見込んでいる。

< 建設業 >

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲27.7	▲16.8	▲7.3	▲16.8	▲38.6	▲38.1
売上DI	▲32.8	▲14.3	▲20.6	▲37.8	—	—
採算DI	▲31.1	▲22.6	▲30.4	▲37.3	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比9.5ポイント低下の▲16.8となった。

経営状況では、売上DIは前期比17.2ポイント低下の▲37.8、採算DIは同6.9ポイント低下の▲37.3となった。

「諸材料の値上がりが天井知らずで、既に受注している案件の利益が薄くなり、また適正価格での請求を求めるも承認してもらえない。また、今後の見積りに関しても、値上がり幅が読めず苦戦。」「資材の高騰、商品の受注停止により、業績が悪化する。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比21.8ポイント低下の▲38.6、半年後は同21.3ポイント低下の▲38.1を見込んでおり、「材料の高騰による値上げについて、お客様が納得されるか、今後の売上には不安がある。」といった声も聞かれた。

< 商業・サービス業 >

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
業況DI	▲60.1	▲50.8	▲55.9	▲48.5	▲47.8	▲42.0
売上DI	▲49.3	▲22.9	▲50.7	▲22.6	—	—
採算DI	▲46.3	▲32.9	▲47.2	▲39.2	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比7.4ポイント上昇の▲48.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比28.1ポイント上昇の▲22.6、採算DIは同8.0ポイント上昇の▲39.2となった。「コロナ対策が緩和され、スナックの開店や、誕生祝い用の花束、アレンジ等の販売が増えてきました。」「かながわPayが実施されたため、好調でした。」「今回のゴールデンウィークは、思っていた以上の人出もあり、売上好調となりましたが、今後の感染状況でまた、時短営業などにならないか心配である。また、食材（材料費）高騰に悩まされている。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.7ポイント上昇の▲47.8、半年後は同6.5ポイント上昇の▲42.0を見込んでいる。「コロナ禍の影響が少なくなってきたのですが、円安により仕入価格が高まっているので、今後の業況がとても心配です。」「現在の状況は良いと思いますが、この先の海外の状況次第では、悪くなることも。ロシアの行動により、海産物の仕入がより高値になる心配も・・・。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
卸売業	▲47.2	▲48.1	▲45.2	▲42.7	▲50.0	▲43.6
小売業	▲69.8	▲60.1	▲63.1	▲56.6	▲57.3	▲50.7
飲食店	▲85.5	▲63.5	▲84.8	▲48.6	▲44.3	▲40.6
サービス業	▲41.3	▲30.3	▲35.1	▲39.4	▲32.1	▲26.9

業種別では、卸売業は前期比2.5ポイント上昇の▲42.7、小売業は同6.5ポイント上昇の▲56.6、飲食店は同36.2ポイント上昇の▲48.6、サービス業は同4.3ポイント低下の▲39.4となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比7.3ポイント低下の▲50.0、小売業は同0.7ポイント低下の▲57.3、飲食店は同4.3ポイント上昇の▲44.3、サービス業は同7.3ポイント上昇の▲32.1、半年後では卸売業が同0.9ポイント低下の▲43.6、小売業は同5.9ポイント上昇の▲50.7、飲食店は同8.0ポイント上昇の▲40.6、サービス業は同12.5ポイント上昇の▲26.9を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和3年		令和4年			
		7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
中規模	業況DI	▲38.8	▲30.5	▲35.9	▲29.3	▲32.4	▲30.9
	売上DI	▲27.8	▲9.3	▲32.5	▲15.1	—	—
	採算DI	▲30.9	▲27.1	▲37.4	▲36.3	—	—
小規模	業況DI	▲53.6	▲47.0	▲43.3	▲47.1	▲50.6	▲43.3
	売上DI	▲42.1	▲28.9	▲41.2	▲32.8	—	—
	採算DI	▲42.8	▲32.8	▲42.6	▲44.4	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比6.6ポイント上昇の▲29.3、小規模企業は同3.8ポイント低下の▲47.1となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比17.4ポイント上昇の▲15.1、採算DIが同1.1ポイント上昇の▲36.3、小規模企業は売上DIが同8.4ポイント上昇の▲32.8、採算DIが同1.8ポイント低下の▲44.4となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比3.1ポイント低下の▲32.4、半年後が同1.6ポイント低下の▲30.9、小規模企業は3か月後が同3.5ポイント低下の▲50.6、半年後が同3.8ポイント上昇の▲43.3を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況DI）

	令和3年		令和4年			
	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期 見込	10-12月期 見込
横浜	▲52.5	▲43.7	▲37.6	▲37.5	▲39.8	▲32.4
川崎	▲41.4	▲28.4	▲28.7	▲35.8	▲34.1	▲30.6
横須賀	▲39.6	▲26.0	▲36.2	▲44.3	▲43.2	▲46.3
平塚	▲51.4	▲44.2	▲41.7	▲46.5	▲49.0	▲51.0
藤沢	▲45.5	▲29.8	▲37.5	▲18.2	▲30.3	▲25.3
相模原	▲38.6	▲36.8	▲45.2	▲36.6	▲48.4	▲44.6
厚木	▲36.9	▲38.5	▲36.8	▲33.6	▲41.8	▲37.0
足柄上・西湘	▲50.5	▲50.5	▲56.9	▲51.0	▲46.7	▲37.4

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比0.1ポイント上昇の▲37.5）、川崎地区（同7.1ポイント低下の▲35.8）、横須賀地区（同8.1ポイント低下の▲44.3）、平塚地区（同4.8ポイント低下の▲46.5）、藤沢地区（同19.3ポイント上昇の▲18.2）、相模原地区（同8.6ポイント上昇の▲36.6）、厚木地区（同3.2ポイント上昇の▲33.6）、足柄上・西湘地区（同5.9ポイント上昇の▲51.0）となり5地区で上昇し、3地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比2.3ポイント低下の▲39.8）、川崎地区（同1.7ポイント上昇の▲34.1）、横須賀地区（同1.1ポイント上昇の▲43.2）、平塚地区（同2.5ポイント低下の▲49.0）、藤沢地区（同12.1ポイント低下の▲30.3）、相模原地区（同11.8ポイント低下の▲48.4）、厚木地区（同8.2ポイント低下の▲41.8）、足柄上・西湘地区（同4.3ポイント上昇の▲46.7）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比5.1ポイント上昇の▲32.4）、川崎地区（同5.2ポイント上昇の▲30.6）、横須賀地区（同2.0ポイント低下の▲46.3）、平塚地区（同4.5ポイント低下の▲51.0）、藤沢地区（同7.1ポイント低下の▲25.3）、相模原地区（同8.0ポイント低下の▲44.6）、厚木地区（同3.4ポイント低下の▲37.0）、足柄上・西湘地区（同13.6ポイント上昇の▲37.4）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部 企画広報課 上野

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和4年4月～6月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		337	127	103	230	72	137	542	1,006
業況判断	現在の業況	▲28.2	▲16.8	▲42.7	▲56.6	▲48.6	▲39.4	▲48.5	▲37.7
	3ヶ月後の業況	▲30.9	▲38.6	▲50.0	▲57.3	▲44.3	▲32.1	▲47.8	▲41.0
	半年後の業況	▲27.8	▲38.1	▲43.6	▲50.7	▲40.6	▲26.9	▲42.0	▲36.8
経営状況	売上	▲19.3	▲37.8	▲17.5	▲34.6	8.3	▲22.6	▲22.6	▲23.4
	採算	▲42.6	▲37.3	▲42.7	▲44.7	▲36.6	▲28.7	▲39.2	▲40.1
	引き合い/客数	▲17.6	▲26.4	▲20.4	▲35.2	▲4.5	▲16.2	▲23.6	▲22.0
	単価	8.7	6.3	1.0	▲30.0	▲15.5	▲4.4	▲15.7	▲4.7
	仕入価格	▲85.7	▲83.3	▲80.6	▲75.3	▲88.6	▲55.0	▲73.1	▲78.6
	資金繰り	▲26.9	▲12.1	▲36.9	▲37.7	▲32.9	▲25.7	▲33.9	▲28.8
	残業	▲18.2	▲23.0	▲21.6	▲15.6	▲17.4	▲15.6	▲17.0	▲18.1
	設備稼働	▲21.6	▲11.7	—	—	—	—	—	▲18.9
前期経営実績	売上水準	▲15.1	▲7.1	▲41.7	▲46.3	▲58.3	▲23.4	▲41.2	▲28.2
	利益水準	1.5	9.4	▲24.5	▲36.0	▲45.8	▲11.0	▲28.8	▲13.8
	在庫	8.9	▲5.1	19.8	▲9.7	0.0	▲5.8	▲1.7	1.5
	投資	▲8.4	▲9.2	▲15.0	▲17.0	▲20.0	▲8.0	▲14.8	▲11.9
	雇用状況	▲14.9	▲36.5	▲2.0	▲17.9	▲27.1	▲29.5	▲19.0	▲19.8

参考<前回調査> 景気動向調査

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		334	126	106	227	82	136	551	1,011
業況判断	現在の業況	▲24.3	▲7.3	▲45.2	▲63.1	▲84.8	▲35.1	▲55.9	▲39.3
	3ヶ月後の業況	▲28.5	▲33.6	▲51.5	▲62.6	▲70.1	▲36.1	▲54.8	▲43.4
	半年後の業況	▲25.9	▲36.1	▲38.8	▲51.6	▲57.9	▲30.1	▲44.6	▲37.3
経営状況	売上	▲19.2	▲20.6	▲41.5	▲58.0	▲75.3	▲30.8	▲50.7	▲36.5
	採算	▲31.2	▲30.4	▲40.6	▲53.3	▲69.1	▲28.6	▲47.2	▲39.8
	引き合い/客数	▲6.3	▲12.8	▲26.7	▲60.7	▲72.8	▲23.1	▲46.7	▲29.0
	単価	▲2.4	▲5.6	▲11.3	▲38.8	▲36.3	▲11.3	▲26.3	▲15.8
	仕入価格	▲84.3	▲66.9	▲76.2	▲65.6	▲86.4	▲49.2	▲66.8	▲72.6
	資金繰り	▲24.5	▲11.2	▲25.5	▲42.4	▲51.3	▲26.1	▲36.4	▲29.3
	残業	▲8.1	▲13.6	▲25.5	▲20.6	▲58.8	▲16.5	▲26.3	▲18.6
	設備稼働	▲8.4	▲6.8	—	—	—	—	—	▲8.0
前期経営実績	売上水準	▲12.6	▲13.5	▲29.5	▲44.6	▲49.4	▲31.1	▲39.1	▲27.1
	利益水準	▲1.5	▲4.0	▲10.4	▲28.8	▲25.9	▲23.1	▲23.4	▲13.7
	在庫	14.5	▲6.9	10.6	▲1.8	12.5	▲8.1	1.3	4.7
	投資	▲8.5	▲15.7	▲18.6	▲20.0	▲19.8	▲14.2	▲18.3	▲14.7
	雇用状況	▲17.2	▲41.1	▲3.8	▲12.4	▲31.3	▲17.4	▲14.8	▲18.9

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		183	154	59	68	289	253	531	475
業 況 判 断	現在の業況	▲19.1	▲39.0	▲1.7	▲30.3	▲41.5	▲56.5	▲29.3	▲47.1
	3ヶ月後の業況	▲22.5	▲41.2	▲32.2	▲44.1	▲38.8	▲58.0	▲32.4	▲50.6
	半年後の業況	▲22.8	▲34.0	▲37.9	▲38.2	▲34.8	▲50.0	▲30.9	▲43.3
経 営 状 況	売上	▲10.4	▲30.1	▲30.5	▲44.1	▲14.9	▲31.3	▲15.1	▲32.8
	採算	▲38.3	▲47.7	▲32.2	▲41.8	▲35.9	▲43.0	▲36.3	▲44.4
	引き合い/客数	▲8.2	▲28.8	▲27.1	▲25.8	▲18.2	▲29.8	▲15.8	▲28.9
	単価	15.4	0.7	5.1	7.5	▲8.0	▲24.4	1.5	▲11.7
	仕入価格	▲82.5	▲89.5	▲84.7	▲82.1	▲70.6	▲75.9	▲76.3	▲81.2
	資金繰り	▲25.7	▲28.3	▲11.9	▲12.3	▲29.1	▲39.3	▲26.0	▲32.0
	残業	▲12.0	▲25.5	▲22.0	▲23.9	▲13.4	▲21.1	▲13.9	▲23.0
	設備稼働	▲17.1	▲26.8	▲12.1	▲11.3	—	—	▲15.9	▲22.3
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲10.9	▲20.1	▲5.1	▲8.8	▲31.5	▲52.4	▲21.5	▲35.7
	利益水準	9.3	▲7.8	23.7	▲2.9	▲18.2	▲40.7	▲4.0	▲24.7
	在庫	12.9	4.0	▲1.8	▲8.3	0.4	▲4.1	4.5	▲2.0
	投資	▲2.7	▲15.2	▲3.5	▲14.3	▲9.7	▲20.7	▲6.6	▲18.0
	雇用状況	▲20.2	▲8.6	▲42.4	▲31.3	▲22.9	▲14.4	▲24.1	▲14.9

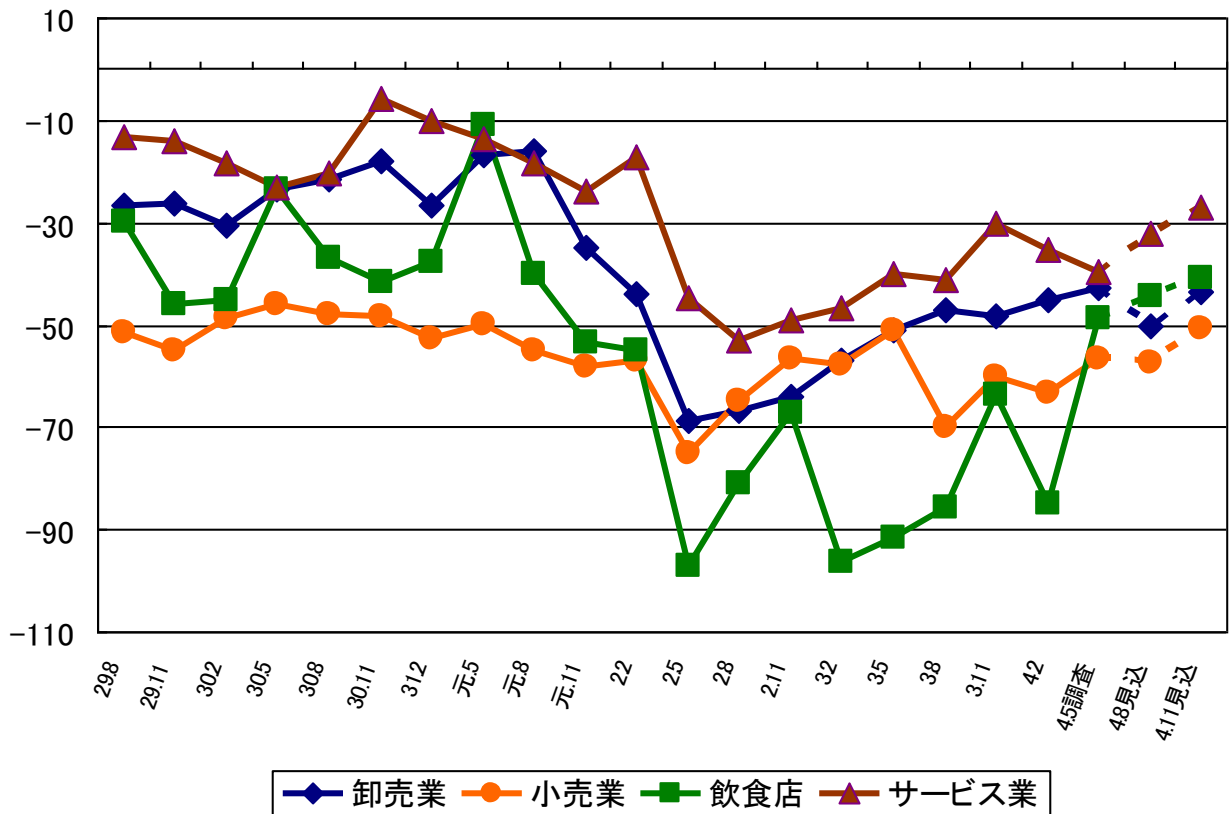
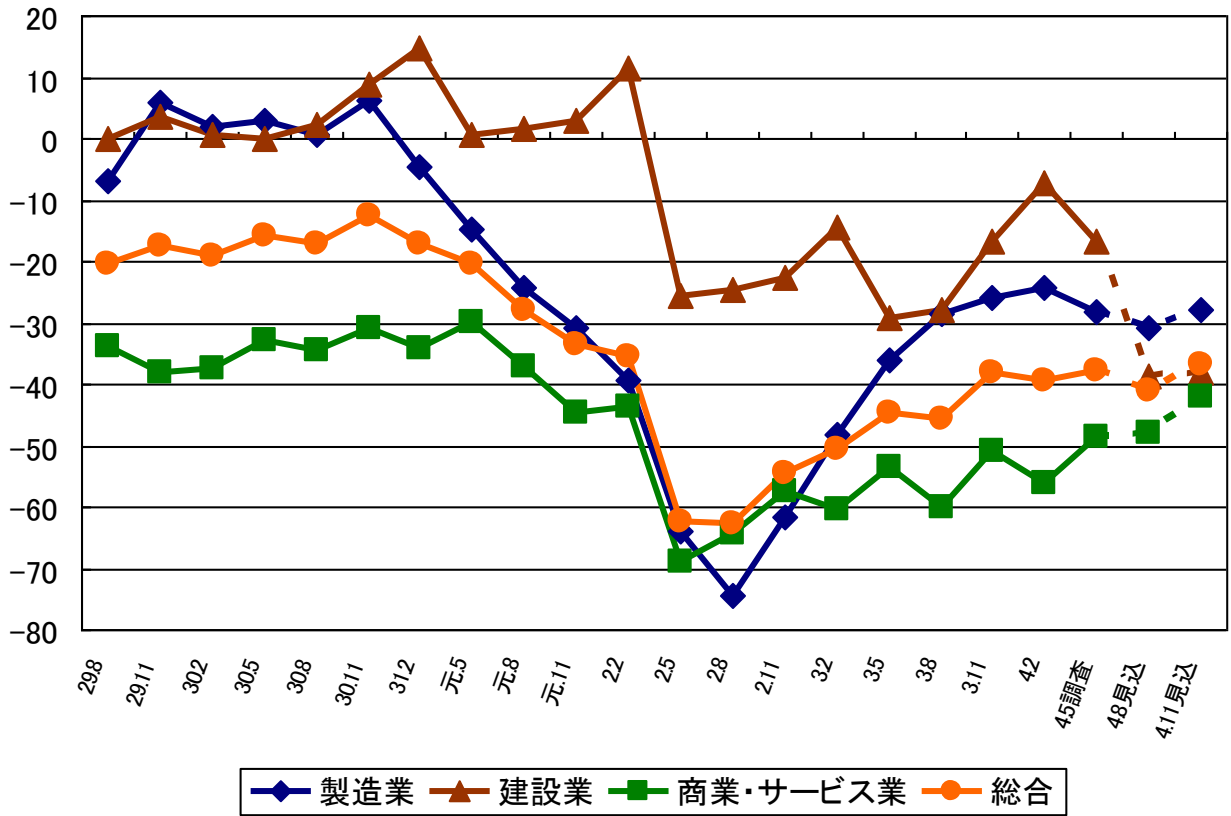
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		270	137	97	102	100	94	110	96	1,006
業 況 判 断	現在の業況	▲37.5	▲35.8	▲44.3	▲46.5	▲18.2	▲36.6	▲33.6	▲51.0	▲37.7
	3ヶ月後の業況	▲39.8	▲34.1	▲43.2	▲49.0	▲30.3	▲48.4	▲41.8	▲46.7	▲41.0
	半年後の業況	▲32.4	▲30.6	▲46.3	▲51.0	▲25.3	▲44.6	▲37.0	▲37.4	▲36.8
経 営 状 況	売上	▲25.3	▲30.7	▲20.6	▲18.6	▲19.2	▲26.6	▲24.5	▲15.8	▲23.4
	採算	▲37.3	▲44.5	▲37.9	▲37.3	▲30.0	▲48.4	▲40.0	▲49.5	▲40.1
	引き合い/客数	▲23.0	▲22.6	▲20.8	▲20.8	▲24.0	▲35.5	▲17.3	▲10.5	▲22.0
	単価	▲4.9	▲7.4	▲1.1	▲6.9	▲3.0	▲5.4	▲0.9	▲7.4	▲4.7
	仕入価格	▲75.8	▲78.1	▲74.7	▲75.5	▲85.0	▲82.8	▲79.4	▲83.0	▲78.6
	資金繰り	▲28.3	▲24.8	▲29.2	▲35.6	▲24.0	▲33.7	▲20.9	▲37.9	▲28.8
	残業	▲15.9	▲21.9	▲15.8	▲14.7	▲15.0	▲23.1	▲19.4	▲22.1	▲18.1
	設備稼働	▲17.2	▲24.2	▲7.5	▲23.4	▲12.5	▲24.5	▲16.4	▲27.0	▲18.9
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲30.0	▲21.2	▲24.7	▲29.4	▲24.0	▲35.1	▲14.5	▲48.4	▲28.2
	利益水準	▲18.6	▲3.6	▲11.5	▲20.6	0.0	▲12.9	0.0	▲41.1	▲13.8
	在庫	▲0.8	▲1.5	▲4.3	2.0	5.1	4.3	3.8	7.6	1.5
	投資	▲9.1	▲9.0	▲6.3	▲12.0	▲13.1	▲19.6	▲13.1	▲19.1	▲11.9
	雇用状況	▲18.3	▲21.3	▲24.2	▲25.0	▲25.3	▲22.8	▲15.6	▲8.5	▲19.8

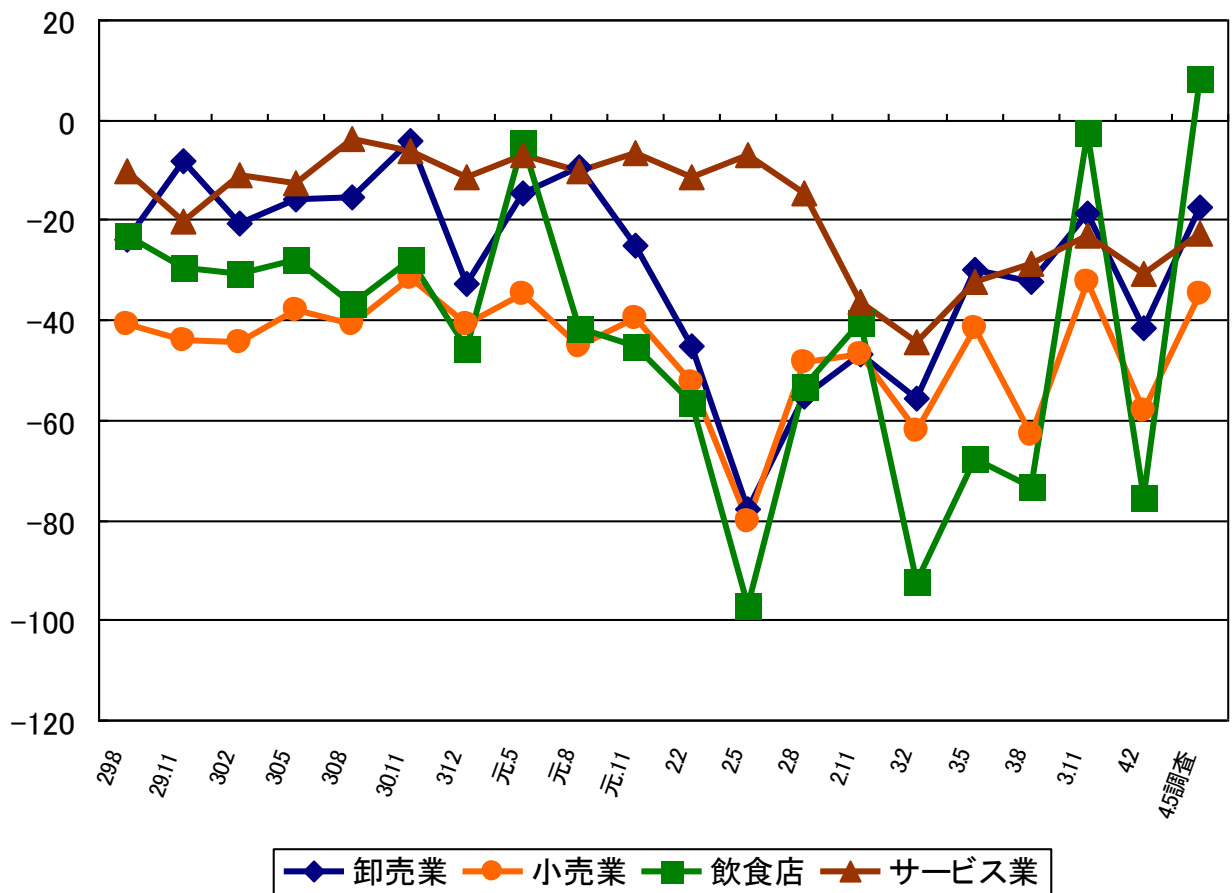
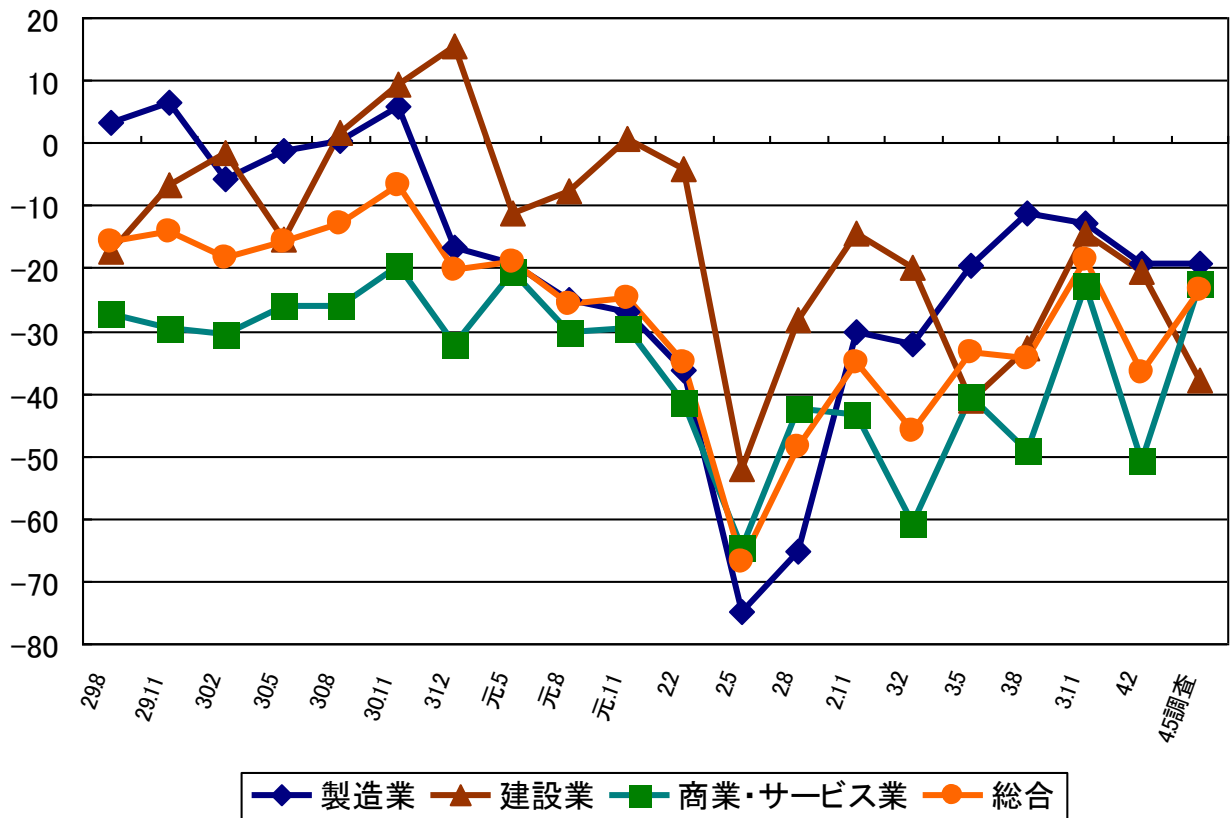
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		86	77	53	121	337
業 況 判 断	現在の業況	▲22.1	▲16.9	▲45.3	▲32.2	▲28.2
	3ヶ月後の業況	▲23.5	▲17.1	▲48.0	▲37.8	▲30.9
	半年後の業況	▲26.2	▲23.0	▲28.6	▲31.6	▲27.8
経 営 状 況	売上	▲18.6	▲22.1	▲28.3	▲14.2	▲19.3
	採算	▲36.0	▲41.6	▲54.7	▲42.5	▲42.6
	引き合い/客数	▲18.6	▲11.8	▲22.6	▲18.3	▲17.6
	単価	9.3	15.6	1.9	6.7	8.7
	仕入価格	▲86.0	▲84.4	▲76.9	▲90.0	▲85.7
	資金繰り	▲23.3	▲16.9	▲35.8	▲31.9	▲26.9
	残業	▲20.9	▲10.4	▲24.5	▲18.3	▲18.2
	設備稼働	▲16.5	▲13.2	▲37.7	▲23.3	▲21.6
前 期 経 営 実 績	売上水準	▲5.8	▲10.4	▲28.3	▲19.0	▲15.1
	利益水準	5.8	13.0	▲7.5	▲5.0	1.5
	在庫	7.3	13.0	10.0	6.8	8.9
	投資	▲7.1	▲11.8	▲7.5	▲7.6	▲8.4
	雇用状況	▲20.9	▲13.0	▲9.4	▲14.3	▲14.9

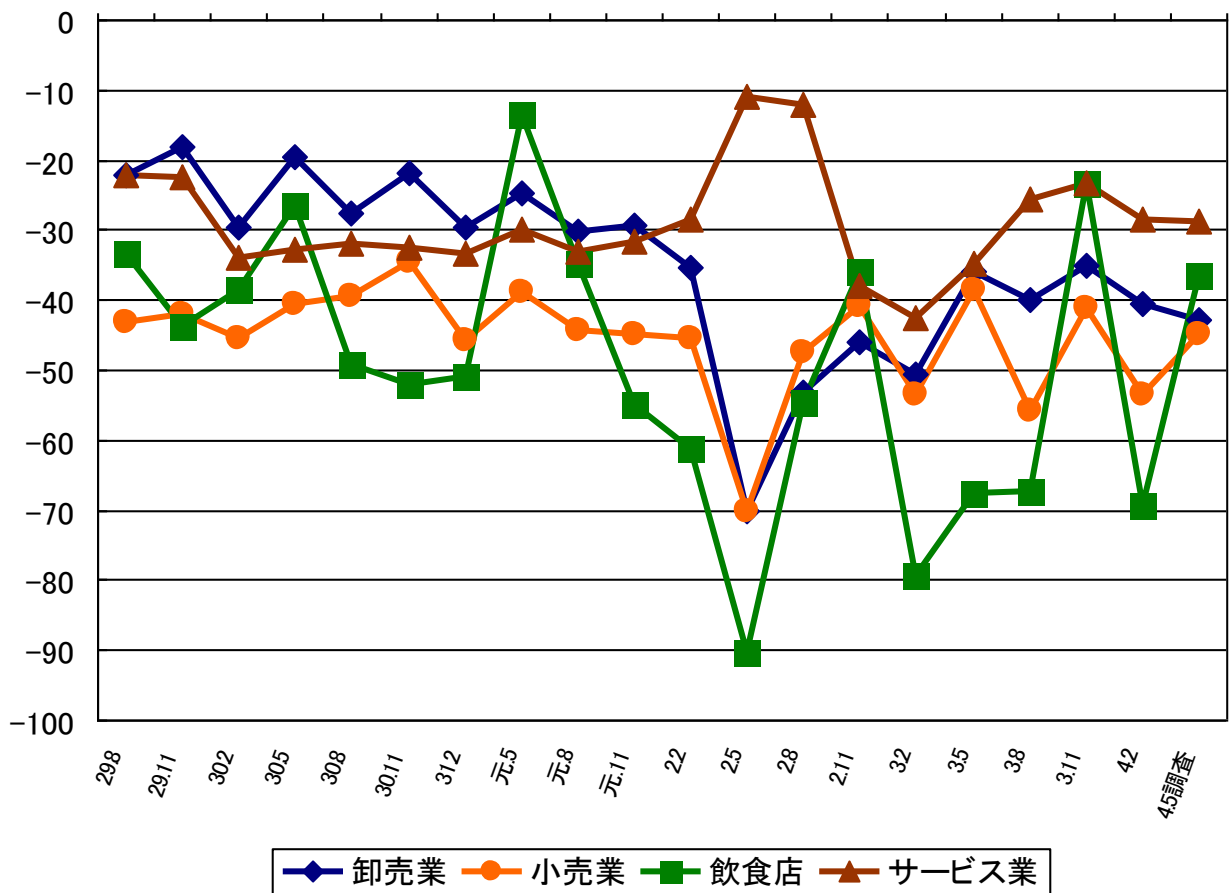
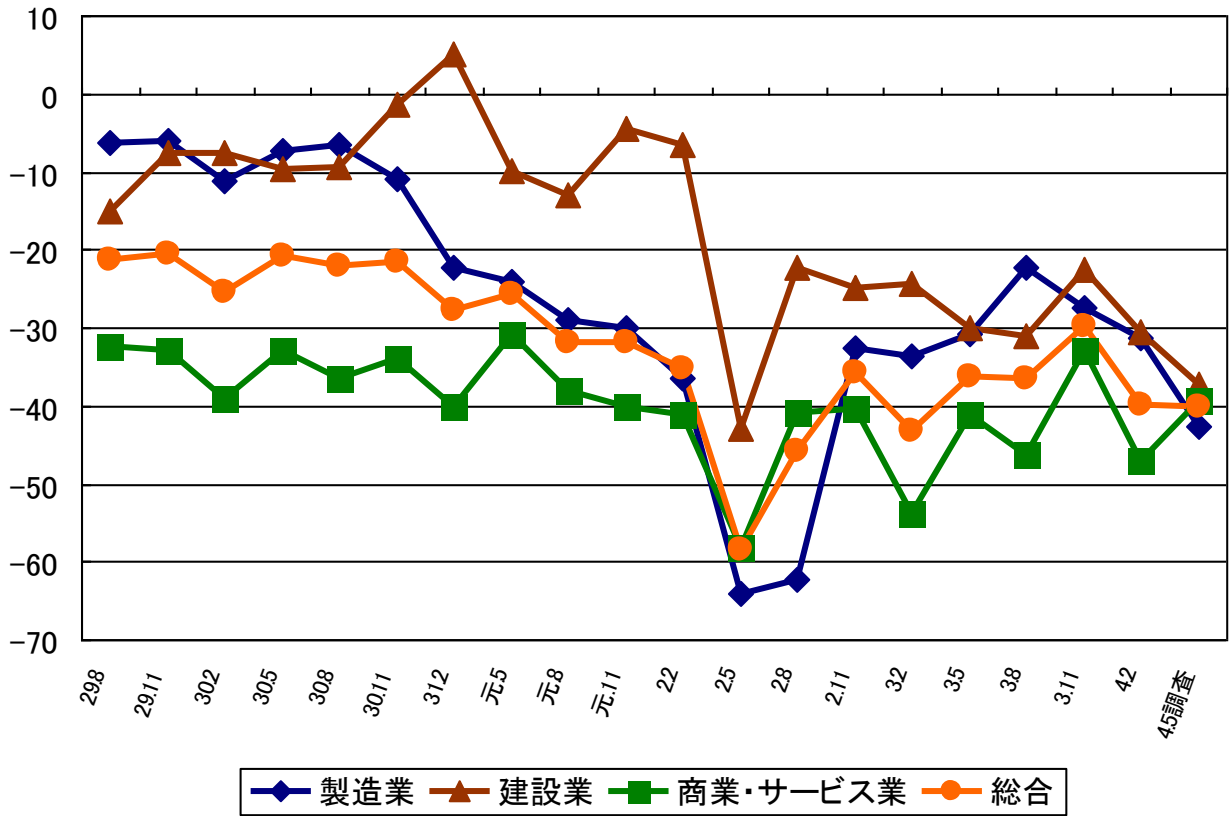
業況DIの推移



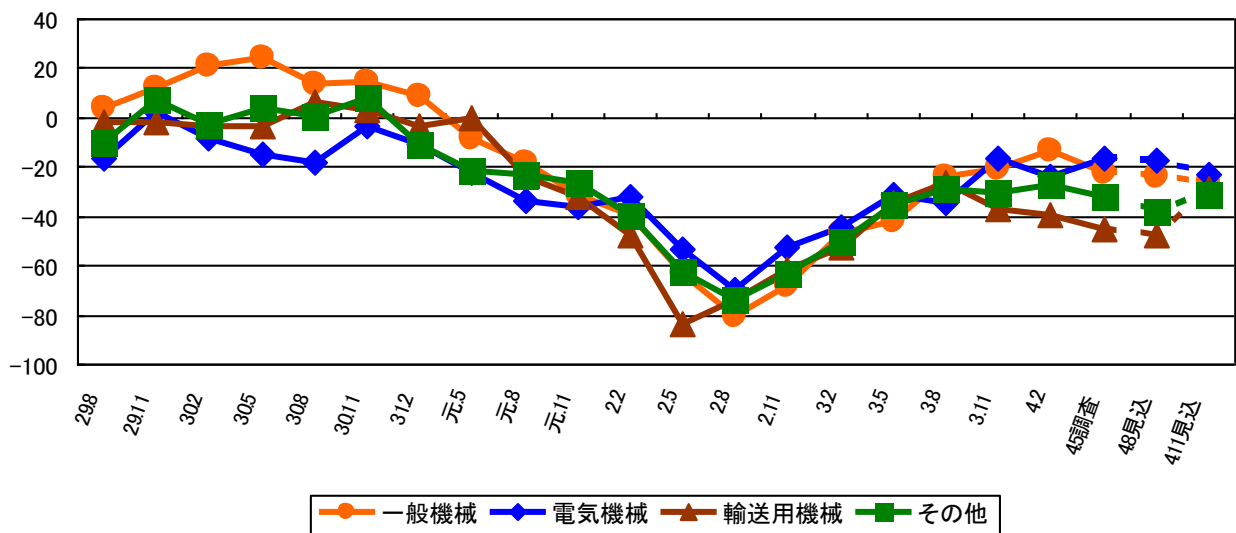
売上DIの推移



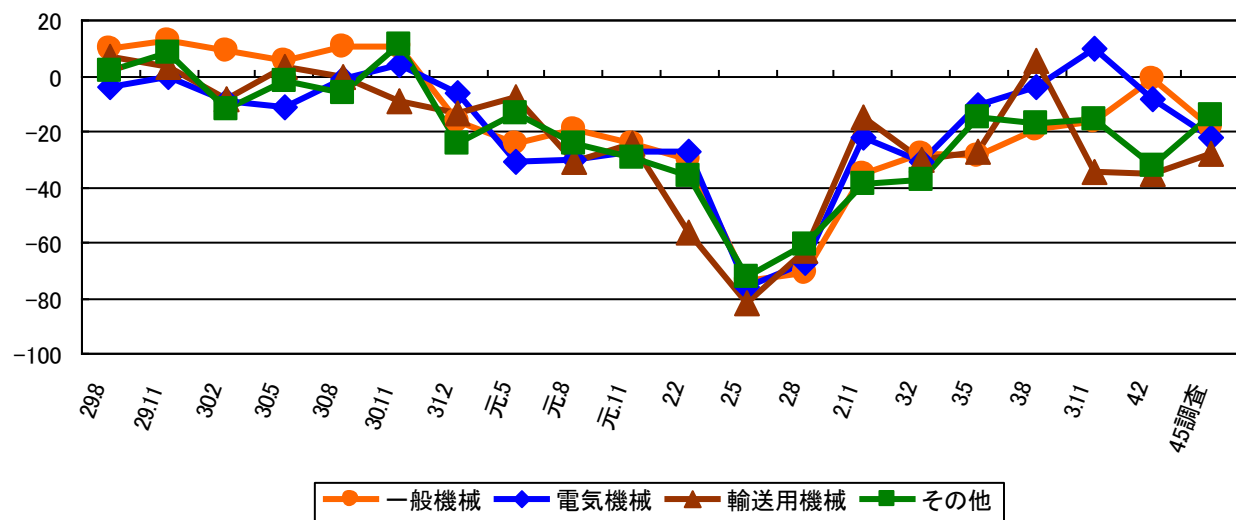
採算DIの推移



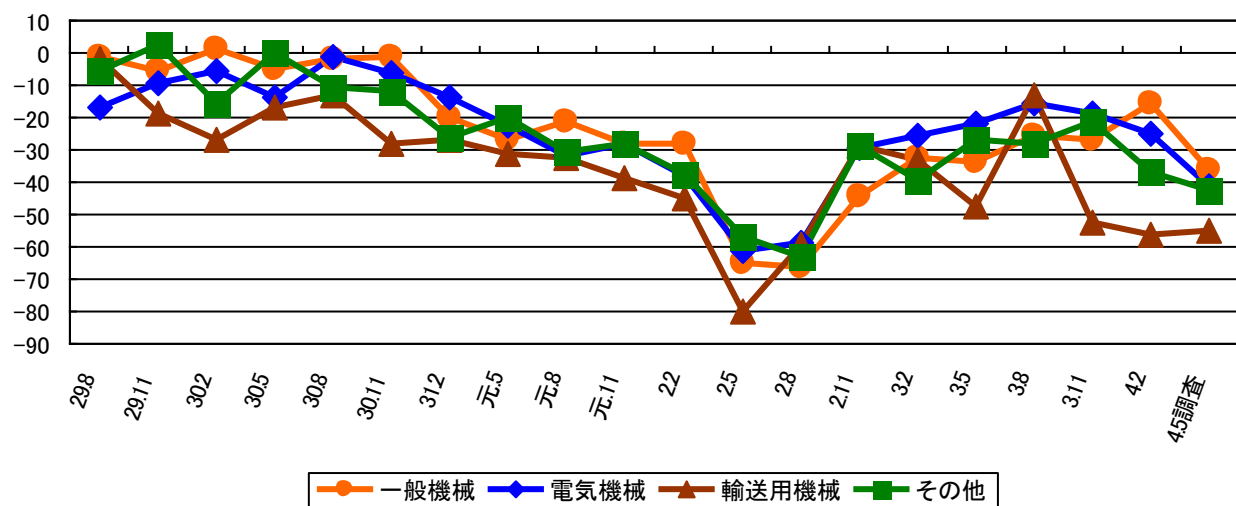
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「全ての購入品の値上がりで、非常に困っています。特に材料費の単価の上昇が止まらない。それを製品単価に乗せられない。」
「自動車業界の材料不足による減産が続き、引き合いが減少している。その中で材料（鋼材）の価格高騰で収益率も悪化し先行きに不安がある。」
「半導体、電子部品の納期遅れ、単価UPで厳しい。」
「コロナで、半導体・部品調達が出来ず、それに伴う組み立て、生産が減り、経営厳しいです。」
「材料が値上がりしているので、単価を上げざるを得ないので、中々受注できない。」
「材料の高騰により、100%転嫁できていない。徐々に採算の悪化が見込まれる。」
「材料高騰・半導体不足は、更に悪化している。先行き不透明感はまだ続く。」
「コロナ、ウクライナ等が重なり、それに諸物価の上昇があり、顧客先が影響を受け、当社も同様となっている。脱却するため、新規顧客の開拓、新商品の開発を進めたい。」
「材料費高騰、受注減が続いている為、利益が落ちている。」
「受注の減少、材料費の値上がりにより、見通し立たず。」
「1~3月が好調だった反動と、ウクライナの戦争による原材料費高及びエネルギー高による利益の減少が心配である。」
「納入先の海外調達の影響で、生産が不安定のため、出荷がバラツキている。徐々に回復しているが、まだ悪影響は続く見通し。」
「一部海外製品を使用しており、円安による仕入れの高騰がきつい。」
「コロナ・ロシアのウクライナ侵攻と鋼材の不足、値上がり等、非常に見通しが厳しい。」

<建設業>

「ウクライナの問題で、原材料高騰を危惧している。」
「部材、材料の納期が未定で、仕事が出来ない事が多い。」
「材料の高騰による値上げについて、お客様が納得されるか、今後の売上には不安がある。」
「資材の値上がりにより、利益の減少、受注の減少となる見込み。」
「資材・材料の値上がりの為、利益が落ちる一方です。建設業に対する補助金の範囲を広げていかないと負担が大きく、潰れるところも増えると思う。政府の対応を改めて頂きたいと思う。」
「資材の高騰で採算が悪くなってきている。」
「材料の値上がりのうえ、材料及び商品などの入荷に遅れが出ている。」
「諸材料の値上がりが天井知らずで、既に受注している案件の利益が薄くなり、また適正価格での請求を求めも承認してもらえない。また、今後の見積りに関しても、値上がり幅が読めず苦戦。」
「資材の高騰、商品の受注停止により、業績が悪化する。」

<卸売業>

「円安で、仕入価格が高騰。販売価格に追いつかない状態が続いています。」
「ウイズコロナの状態を国が守ってくれれば、経営（商い）ができる。今後、コロナでマン防をしないで下さい。」
「鋼板の仕入れが異常な程上がっており。売値も上げる努力はしていますが、思うように上げられず客先も苦しんでいる。」
「建設資材価格が高騰し、契約販売分の売価変更が難しい。よって販売利益の圧縮により、今後の資金繰りが厳しくなる。」
「原材料、その他の値上げが深刻です。客先もすぐに値上げしてくれるわけではないので。」
「とにかく価格が急上昇していて、販売価格がついてきていない状況です。対応して値上げをすると、注文がなくなり、厳しい局面です。」
「コロナ禍の影響が少なくなってきたのですが、円安により仕入価格が高まっているので、今後の業況がとても心配です。」
「あまりにも不安定要素が多すぎて、先行き良くなる見通しが立たない。」
「原材料及び、購入品の欠品により、客先における装置製作に悪影響が出ていて、受注・生産が停滞している。」

調査回答企業からのコメント(一部)

<小売業>

「コロナにより、人の動きが悪い。だいぶ少なくなっはきたが、天候が安定しなくても、人の動きが悪い。これから少し良くなるかも。」
「令和4年1～3月は、町のプレミアム補助金、入園物で売上は伸びましたが、4～5月になると客足は増えたもののV字回復とは言えない。物価値上げで、仕入価格の上乗せも予想されるが、客への価格転嫁は難しく、利益が少なくなりそうである。」
「消費者の購買意欲がまだ少ないように思います。コロナ禍での営業は、良い部門と悪い部門があります。全体的にはあまり良くないです。」
「コロナ対策が緩和され、スナックの開店や、誕生祝い用の花束、アレンジ等の販売が増えてきました。」
「少しづつではあるが、回復してきている。」
「3月より暖かくなり、ゴルファーが動き出した。売上は好調です。コロナの影響で、若者ゴルファーが増え、見通しは明るいです。」
「かながわPayが実施されたため、好調でした。」
「一部の余裕のある層を除き、購買意欲が低い。」
「今期4月～6月は、繁忙期なので好調だが、7月からは、コロナの状況次第なので、顧客の高齢化で見通しが立たない。」
「物価上昇による消費マインドの冷え込み。原材料、資材の値上がり不安要因です。」
「原材料・運賃の高騰により、仕入価格が上がっているのが大きく、商品の値上げが出来ず、利益が縮小傾向である。」
「ウクライナの先行きが不透明なので、消費マインドは減退している。半年後の見通しは全く立たない。」
「原油高、ウクライナ情勢等で、仕入が今までになく上昇。加えて円安。販売価格に転嫁できなく、大幅な減益となっている。」
「電子部品の不足。コロナによる自動車用品の品薄による売上減。新車の納車期間の大幅な遅れによる資金繰りの悪化。中古車の高騰による利益率の悪化等により、自動車販売業（メーカーは別）にとっては、あまり良い条件ではありません。」

<飲食店>

「コロナの影響が少し和らいできたように思います。」
「今後、またコロナが蔓延するようだと業績は悪化してしまう。このまま終息してほしい。」
「油や小麦、ビニール用品等、値上げが激しく、価格に転嫁しにくいいため、利益が取れなくなってきている。」
「今回のゴールデンウィークは、思っていた以上の人出もあり、売上好調となりましたが、今後の感染状況でまた、時短営業などにならないか心配である。また、食材（材料費）高騰に悩まされている。」
「現在の状況は良いと思いますが、この先の海外の状況次第では、悪くなることも。ロシアの行動により、海産物の仕入がより高値になる心配も・・・。」
「ウクライナの戦争の影響で、食材の仕入価格の高騰が続いており、これから夏にかけては、売価を1～2割程上げて行かざるを得ないと思う。」
「コロナ禍も今のところひと段落している感があり、このまま行けば良いと思いますが。」
「コロナ禍のため店舗により時間短縮営業や休業を実施し協力金で資金繰りを回してきた。アルバイト従業員を抑制してきたため、他へ移った従業員がおり現状は従業員が不足気味。」
「蔓延防止のための時短要請解除後も、ディナータイムは苦戦しています。以前のように、夜に出掛けるようになるには、今少し時間が必要なのではないでしょうか。」

<サービス業>

「今後のコロナ感染者数の動向により変わってくると思います。」
「WEB広告等も活用し、努力するも効果は低く、経費増になっている。ガソリン価格の上昇等も影響し、コロナによる自粛期間が長期化しているため、走行キロ数も減少傾向が続き、整備の需要が低下している。」
「コロナウイルスによる社会生活の変化、テレワークの普及により、在宅勤務者が増加。人々が安心して外出、遊びに行けるようにならないと、クリーニング需要も増えない。早く人々が自由に行動出来る社会に戻してほしい。大きな売上高の減少でなくてもやりくりが大変だ。」
「コロナ、ロシア等による影響が大である。アルミ等、非鉄屑の値上げ。」
「顧客の多くがホテル様なので、GoToキャンペーン等の施策があれば、改善が見込める。」
「コロナ感染者数が減らない限り団体旅行は戻らない。個人客は増えているけれど団体旅行を扱う会社はまだまだ厳しい状況が続いています。」
「コロナが少し落ち着き、レンタカーは戻ってきた。しかしながら、主たる自動車整備の単価が下がり続けている。また、新車の納期に時間がかかる状況で、中古車の仕入が高くなってしまっている。」
「緊急事態宣言、蔓延防止の解除により、顧客稼働は回復傾向。燃料、資材高騰のため、経費は上昇し、利益率を圧迫。」